

Ⅲ 主な活動内容一覧

みのかも文化の森・美濃加茂市民ミュージアムでおこなった学校活用の中で、ミュージアムにある資料や自然、人を生かした活動をまとめました。目安となる学年や時期は記載してありますが、どの内容についても各発達段階に応じた内容として行うことができます。

学年	時期	教科	単元・活動名	主な内容
全学年	通年	生活科 生活単元 など	「文化の森を楽しもう」	文化の森の館内や森の中でのフィールドビンゴや見学などを組み込むことができる。ほかの活動との組み合わせ、児童生徒の発達段階や学年、活動時期に合わせた内容で楽しめる活動に仕上げる。
	通年	生活単元	「五平餅づくり」 「かまどでごはん」 など	生活体験館にあるカマドを使ってご飯を炊き、五平餅作りを行う。薪割り体験、七厘での火起こし体験、生活体験館や民具展示館の見学等を行うこともある。
		生活科	「お餅を焼こう」など	
	通年	生活単元	「葉っぱのお皿をつくろう」	タタラにした粘土に森で集めた葉っぱや木の実の模様をつけ皿作りを行う。タタラ板とのし棒を使って粘土をタタラにするところから行うこともある。また、タタラ板やひも状にした粘土から、えんぴつ立てやマグカップを作ったり、丸めた粘土から土鈴などを作ったりすることもある。抹茶茶碗を作り、完成後に茶の湯体験とつなげての活動をすることもできる。
		図画工作	「焼き物をつくろう」など	
	通年	生活単元 など	「たたき染めをしよう」	学校周辺や文化の森で見られる身近な植物を素材とし、布を染める体験を行う。葉っぱを布に固定し、ハンマーでたたくことで葉っぱの形に染めることができる。
	通年	生活単元 など	「オリジナルエコバッグをつくろう」	葉っぱや野菜、段ボールを使ったスタンプを押してオリジナルエコバッグ作りを行う。
のぞみ	通年		「粘土の作品づくり」 「七夕飾りをつくろう」 など	名札作り、昔の遊び、施設見学、粘土の作品作り、七夕飾りをつくることを通じて、日本語をはじめ、日本の文化や習慣を学習する。
小1年	4～7月	生活科	「なつがやってきた」 「いきものとなかよし」	はじめて来館する児童が、常設展示室、タワーなどの見学、森の散策を通して、文化の森はどのような施設かを知る。また、季節にあわせた内容の読み聞かせを聞いたり、森での草花遊び、生き物さがしなどを行ったりすることもできる。
	9～11月	生活科	「たのしい あき いっぱい」	森の中にあるどんぐりなどの木の実を集め、キリなどの道具を使って、どんぐりごま、けん玉などのおもちゃ、ネックレスや冠などのアクセサリ、リースなどを作る。 ひろった木の実を利用して、壁飾りなどに仕上げることもできる。
	12～1月	国語科	「たぬきの糸車」	生活体験館で「声のドラマ」の会による『たぬきの糸車』の朗読を聞き、糸車を回したり、土間や障子などを見学したりする。ぶんぶんごま作りや昔の遊びをすることもできる。
		生活科	「むかしから つたわる あそびを たのしもう」	

小2年	4～6月	生活科	「春だ 今日から2年生」	敷地内に自生しているたんぽぽ、シロツメクサ、オオバコなど、春の植物を使った笛や風車作りなどの遊びをする。みのかも「声のドラマ」の会の方に季節の虫のお話を読んでいただいたり、森の探検をしたりすることもできる。
		国語科	「たんぽぽのちえ」	
	6～10月	図画工作	「どんどん ならべて」	森の中で、落ち葉や木の枝など自然の素材を集めてつなぎ並べていく。全身で作り出していく造形あそびをたのしみ、作ったものを鑑賞し交流する。また、自然素材を使って遊んだり、自然を体感したりすることもできる。
	9～12月	生活科	「みんなで つかう まちの しせつ」	文化の森で働く人々やその仕事について、博物館である文化の森の役割を知ったり、文化の森の施設内にあるマーク、点字ブロック、点字パネルや段差の有無など、訪れる人みんなが利用できる工夫がしてあることに気づいたりすることができる。
	2～3月	国語科	「スーホの白い馬」	みのかも「声のドラマ」の会の方による『スーホの白い馬』の朗読を聞いた後、会の皆さんの指導で音読練習をし、発表を行う。
小3年	4～7月	社会科	「わたしのまち みんなのまち」	社会科では「みのかもすごろく」をしたり、タワーから市内を観察したりすることにより市内の土地利用の特徴をつかむ。理科ではチョウの体の仕組みや一生などを学ぶことができる。図工では木の枝を鉛筆の形に削り、色を塗る。国語科では森を舞台とした作品の朗読を森の中で聞き、音読発表を行う。
		理科	「チョウを育てよう」	
		図画工作	「これでかきたい」	
		国語科	「春風をたどって」	
	1～3月	社会科	「市のうつりかわり」	生活体験館にある洗濯板や炭火アイロン、七厘などの古い道具を使って、昔の生活を体験する。また、市のうつりかわりについて、スライドを活用し、道路や鉄道、昔のくらしなどの項目ごとに学習することもできる。
小4年	10～12月	社会科	「きょう土の伝統・ 文化と 先人たち」	「福田太郎八」をとりあげ、昔の絵図や古文書などの収蔵資料を見たり、福田太郎八についての紙芝居を見たりする。また、当時のため池造りに使った道具の体験や調べ学習をしたり、実際に太郎洞池や堤防を見学したりする。
小5年	5～6月	社会科 総合	「米づくりの さかんな地域」 「米づくりの一年」	昭和以前によく使われていた米づくりの道具を見たり、体験したりする。機械を使わず馬や牛とともに行っていた米づくりの話を聞く。また、学芸員から古代の米づくりの話を聞いたり、それに関わる石包丁などの道具や衣装を見たり、触れたりすることができる。
	9～12月	理科	「流れる水のはたらき」	市内の河川を現地で観察することで、土地の浸食、石や土の運搬、堆積の働きを知ることができる。また、川浦川では上流の特徴や岩石の観察、流れの速さの実験を行い、木曽川では中流のようす、川原の観察などを行う。
	通年	総合	「ユニバーサルデザイン 調べ」	文化の森にある点字ブロックや点字パネル、段差の有無など、施設の中にあるユニバーサルデザインを見つける。

小6年	4～7月	社会科	「縄文のむらから 古墳のくにへ」	常設展示室、保存住居跡で美濃加茂の縄文、弥生時代の人々のくらしや、縄文土器と弥生土器の違いや特徴について学習する。縄文土器を作る、森の中で遺物を探すなどの活動を行うこともある。復元した農具にふれたり、貫頭衣などの当時の衣装について解説を聞いたりすることもできる。
	5～7月	社会科	「今に伝わる室町文化」	生活体験館で古くから伝わる日本の文化を体験する。おもてなしの魅力では、お客さんとお運びさんに分かれて茶の湯体験をする。墨絵では、学芸員の解説を聞きながら禅画の見学をし、和紙に墨を使って絵を描く体験をする。着物の魅力では、反物から和服ができるまでの話を聞いたり、運針を見たりする。
		総合	「日本の文化を 体験しよう」	
	9～12月	理科	「大地のつくりと変化」	市内にある露頭した地層を学芸員とともに観察し、水や火山のはたらきによってできた地層の特徴を知ることができる。また、岩石標本や常設展示室の地質柱状図、化石などから、美濃加茂の大地を構成している地質について学ぶことができる。
中1年	通年	総合的な学習の時間	「文化の森活動・ 地域を知る」	「この地域に関わる」美術、自然、歴史、民俗などの分野について知る。から興味のある活動の一つを選択し、学芸員から専門的な知識や技術を学ぶ。普段、入ることのできない土器整理室の見学、収蔵品を使った活動、坪内逍遙についての活動を行うこともある。
		総合的な学習の時間	「アートを楽しもう」	ビンゴをしながら、自由に交流し合うことで、アートの多様な鑑賞方法を知ることができる。また、展示室の美術作品を鑑賞し、テーマにそって感じたことを交流することで、他者の視点を通して作品を楽しむことができる。
中2年	10～11月	総合	「職場体験」	学習係に同行し学校活用で来館している児童、生徒の活動支援、準備、片付け等を行う。また、学芸員や総務の仕事を体験することもできる。自分たちが学んできた博物館の仕事を準備する立場となり、体験を通して働くことの意味や仕事について考えることができる。
保育園	7～12月	卒園制作	「葉っぱのお皿づくり」	タタラにした粘土に、森で集めた葉っぱや木の実の模様をつけ、お皿作りを行う。

※食に関する活動については、衛生に気を付けつつすすめていきます。